

小さな心がけを。

ふだんのちょっとした心がけで、大切な命を守ることができる。大きな被害を防ぐことができる。川と生きるわたしたちは、「洪水がくるかも…」という気持ちを忘れずにいよう。

雨の降り方に気を配ろう

ふだんから雨の降る様子に注意し、川の水位に気を配ることで、心の準備がしやすくなり、早く行動することができます。洪水の発生を予想することも、不可能ではありません。雨の強さの目安は、右の図を参考にしてみましょう。

避難する場所を、調べておこう

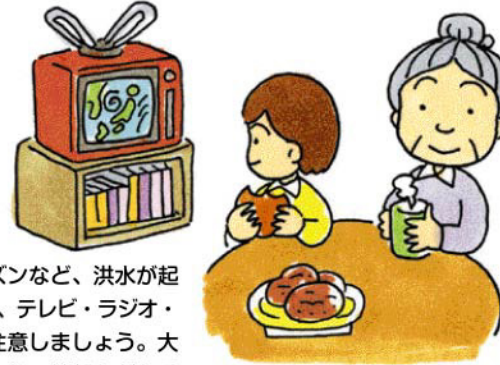
市や町が公表している避難場所と、そこまでの安全なルートをあらかじめ確かめ、家族で話し合っておきましょう。確認には、下のような注意が必要です。

ふだんの心がけ

雨の強さの目安 1時間の降雨量

- ふつうの雨 (5~10mm)**
雨の音は軽やか、地上では、あちこちに水たまりができます。
- 強い雨 (10~20mm)**
雨の音がうるさく感じ、水たまりは一面に広がります。このような雨が長く続いたら、そろそろ注意が必要です。
- もうれつな雨 (30mm以上)**
目の前が見えなくなるほどのはげしい雨。浸水しやすいところでは、避難の用意をしなければなりません。
- はげしい雨 (20~30mm)**
道ばたの側溝から、水があふれだすほどのどしゃぶり。小さな川なら氾濫します。

1 天気予報や気象状況に気をつけましょう。



梅雨時や台風シーズンなど、洪水が起こりやすい時期には、テレビ・ラジオ・新聞の天気予報に注意しましょう。大雨や洪水等の各注意報・警報なども見落とさないように注意しましょう。

2 避難場所や避難路を確認しておきましょう。



地区ごとに、緊急・災害時に避難する場所（学校や集会所等）が定められています。自分の地区の避難場所がどこなのか、また、そこへ安全に行くためにはどう行けばいいのかを家族で確認しておきましょう。

3 大雨や台風に合わせて家のまわりを点検整備しておきましょう。



家のまわりに吹き飛ばされそうなものはないか、雨戸や瓦、雨どいなどが傷んでいないか確認しましょう。また、家のそばにある排水溝が詰まっているかなども確認しましょう。

4 非常食や持ち出す物などを準備しておきましょう。

非常食には、調理の手間がかからず、水を使わなくてもできるもの（レトルト食品や缶詰めなど）を選びます。懐中電灯や携帯ラジオ、乾電池も忘れずに用意しましょう。また、定期的に非常用持出袋の中身をチェックするようにしましょう。

●水
市販のミネラルウォーターなどが最適です。賞味期限に気をつけて…

●食料品
缶詰、缶入りクッキーなどの保存食。これも賞味期限をこまめにチェック。赤ちゃんがいる家族では、ミルクも必要です。

●救急セット
ばんそうこうや消毒液など、ひととおりそろえておきましょう。持病のある人は、その薬も忘れないように。

●ろうそく
マッチやライターをそろえて用意。火がつくかどうか、時々ためてください。

●ロープ
救助や脱出などさまざまな時に使えます。

●懐中電灯
停電に備えて、予備の電池と一緒によく用意。

●ポケットラジオ
停電しても気象と洪水の情報。交通情報を聞けるように。予備の電池も忘れずに。

●現金・貴重品
現金、保険証、預金通帳など、ふだんから、置き場所を決めておくことです。

避難場所を確認するときは…

- 水害の避難場所は、地震・火災の避難場所とちがう場合があります。
- 地域センターなどの公共施設が一時的な避難場所に使われる場合があります。
- 緊急の時には、民間施設や高層の建物を避難場所にする事も考えてみましょう。

インターネットによる洪水関連情報

湯沢河川国道事務所などの各事務所及び国土交通省のホームページから、洪水に関する情報を入手できます。また、(財)河川情報センターでは、iモードによる川の防災情報の発信も行っており、外出先でも同じように洪水に関する情報を知ることができます。その他の機関のホームページにも、災害に関する情報があります。“災害119”などでは、秋田県内の水害だけでなく、地震や津波などの情報も収集する事ができます。

パソコンでの洪水情報ページ

- 国土交通省東北地方整備局 URL <http://www.thr.mlit.go.jp/>
- 国土交通省川の防災情報 URL <http://www.river.go.jp/>
- 湯沢河川国道事務所 URL <http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/index.html>

携帯電話での洪水情報ページ

- 川の防災情報 (i-mode) URL <http://i.river.go.jp/>

